高崎北高校図書委員会

本のむし

令和6年度12月号　2024年12月12日発行

推薦図書特集3

☆冬季特別貸出について☆

12月10日(火)～26日(木)

上限冊数:10冊、

貸出期限:1月9日(木)まで

この機会にぜひ…。

☆冬季休業中の開館日

12月25日(水)、26日(木)　9:00～15:50

☆貸出中の本を整理しましょう！

読み終えている本や貸出期限の過ぎた本は、速やかに返却しましょう。引き続き借りるときは延長手続きを行ってください。

また督促状が届いた３年生は冬季休業に入る前に忘れずに返却しましょう。詳しくは図書館までお問い合わせください。

新着図書案内

「小論文を書くために読んでおきたい本」強化月間

書名	著者名	出版社/新書	請求記号
生なるコモンズ	濱田陽	春秋社	002
問うとはどういうことか	梶尾真司	大和書房	107
モチベーションの心理学	鹿毛雅治	中公新書	141
聞く技術　聞いてもらう技術	東畑開人	ちくま新書	146
16歳からのライフシフト	リンダ・グラットン	東洋経済新報社	159
古代国家はいつ成立したか	都出比呂志	岩波新書	210.3
地方を生きる	小松理虔	ちくまプリマー新書	302
民主主義を疑ってみる	梅澤佑介	ちくま新書	311
女性のいない民主主義	前田健太郎	岩波新書	311
くじ引き民主主義	吉田徹	光文社新書	311
経済学の思考軸	小塩隆士	ちくま新書	331
資本主義は私たちをなぜ幸せにしないのか	ナンシー・フレイザー	ちくま新書	332
人口亡国　移民で生まれ変わるニッポン	毛受敏浩	朝日選書	334
未婚と少子化	筒井淳也	PHP新書	334
財政と民主主義	神野直彦	岩波新書	340
異文化コミュニケーション学	鳥飼玖美子	岩波新書	361
体験格差	今井悠介	講談社現代新書	368
子ども介護者　ヤングケアラーの現実と社会の壁	濱島淑恵	KADOKAWA	369
複雑化の教育論	内田樹	東洋館出版	370
先生が足りない	氏岡真弓	岩波書店	374
日本列島はすごい	伊藤孝	中公新書	455
生きものたちの眠りの国へ	森由民	緑書房	481
思考と体がスッキリ！睡眠のしくみ	坪田聡	成美堂出版	498
まちがえる脳	櫻井芳雄	岩波新書	491
おうちスコーン図鑑	稲田多佳子	ナツメ社	596
失敗しないデザイン	平本 久美子	翔泳社	674
「アート」を知ると「世界」が読める	山中俊之	幻冬舎新書	702
いつもの言葉を哲学する	古田徹也	朝日新書	801
人魚が逃げた	青山美智子	PHP研究所	913.6
百年かぞえ歌	大崎梢	KADOKAWA	913.6
青い鳥　新潮文庫	重松清	新潮社	913.6
ひまわり	新川帆立	幻冬舎	913.6
サーペントの凱旋	知念実希人	KADOKAWA	913.6
うそコンシェルジュ	津村記久子	新潮社	913.6
ケーキ王子の名推理7	七月隆文	新潮文庫	913.6
架空犯	東野圭吾	幻冬舎	913.6
また団地のふたり	藤野 千夜	双葉社	913.6

図書委員おすすめの本

『52ヘルツのクジラたち』
町田そのこ・著（中央公論新社）2023

東京から田舎へ逃げてきた主人公、貴瑚はのんびりと過ごしているように見えるが、心身ともに痛々しい傷跡を背負っていた。ある日、過去の傷をおさえながら雨の中泣いていた貴瑚に傘を差しだしたのは、母に虐待されムシと呼ばれていた少年だった。少年を助けようとする貴瑚の過去が少しずつ明らかになっていく、感情が大きく揺さぶられる物語。愛されたい気持ち、孤独に耐えられない気持ち…多くの気持ちに思わず感情移入してしまうのだ。

この本は映画化や本屋大賞をつかみ取った町田そのこさんの傑作のひとつだ。何回読み返しても涙を流してしまうこと、最後のページを読み終える時には心が軽くなっていること間違いなしの最高の本だ。５２ヘルツのクジラの声は周波数が高くて他のクジラには届かない。町田さんが何を意図してタイトルを「５２ヘルツのクジラたち」にしたのかを考えながらまだ読んだことのない人にも、映画をすでに観たという人にもぜひ手に取って読んでほしいと思っている。この本はきっとあなたにとっても大切な本になるはずだ。

『歌われなかった海賊へ』 逢坂冬馬・著（早川書房）2023

この本は逢坂さんの二作目となる作品で、舞台はナチス体制下のドイツです。少年のヴェルナーが体制に抵抗しヒトラーとたたかう中で生まれる関係や結果が残酷ながらも考えさせられるような素晴らしい作品となっています。とくに私は情景のリアルさが好きで、主人公たちの置かれている世界が本当にあったのではないかと思えるような生々しさが魅力です。また彼らが所属している団体が実際に存在していたそうで、さらにリアルさが強調されています。この物語のテーマは「二面性」だと私は考えていて、人の弱さや強さ、嘘や真実などの一人の人間の二面性だけでなく、一人の人間をみた印象の二面性もあると思います。深い心情や物語を読みたい人、どんでん返しや伏線回収が好きな人、歴史やナチスを知りたい人にぜひ読んでみてほしいです。

『かがみの孤城』 辻村深月・著（ポプラ社）2017

この本はいじめが原因で学校に行けなくなってしまった中学一年生のこころという女の子が主人公として書かれています。ある日、こころの部屋にある姿見が突然光り出し、手を近づけたこころが吸い込まれてしまいます。その先には洋風の城があり、中には６人の少年少女とオオカミのお面をかぶった“オオカミサマ”がいました。目的は城のどこかにある鍵を探し出して、願いを一つ叶えてもらうこと。突然連れてこられたこころを含む７人の少年少女はここでどのような一年を過ごしていくのでしょうか。私はこの本を読んで人の内に隠されていた感情や辛い過去に出会うたびに、胸がしめつけられるような痛みを感じましたが、ラストではあらためて友だち、家族の存在を見つめ直すことができました。ぜひ読んでみてください。

『計測の科学』 ジェームス・ヴィンセント著（築地書院）2024

当書はロンドン出身のジャーナリスト兼ライターの著者が仕事でパリの国際度量衡局（BIPM）を訪れた際、計測の重要性を感じたことを機に書かれた本です。

全１０章で構成され、人類最初の単位、大きさが可変の計測、フランス革命の中のメートル革命といった面白い知見やストーリー性のある話から、計測がもたらす幸福と災厄という壮大な話をさまざまな単位の歴史から正確な最新情報で語ってくれる本となっています。

『最後のひと葉』 オー・ヘンリー著（岩波書店）2001

多くの人が読み応えのある小説を紹介しているのではないかと思いますが、この「最後のひと葉」は昨年度の英語コミュニケーションⅠの教科書の巻末に掲載されていた英語長文「The Safe」の原作である「よみがえった良心」をはじめ、最後の数行で驚かされる短編の物語が１４作収録されています。一つ一つの話が短いので、長編小説を読むことがあまり得意ではない私も結末を予想したり、ときにハラハラしたりしながら没頭することができました。表題の「最後のひと葉」は肺炎が重症化し、「窓の外に見えるあのツタの葉の最後の一枚が散ったら死んでしまうだろう」と医者に告げられて気が滅入っているジョンシーの症状を、一緒にアトリエを借りているスーが、近所に住む絵描きの老人ベアマンさんに伝え、想定外の方向に物語は動きます。ネタバレになってしまうためこれ以上あらすじ紹介はできませんが、普段から小説をよく読む方にも、あまり読まない方も読んでみてください。「空まで響き、ついでに空の端っこを欠いてしまったほどの大声」など、日本の作品にはあまり見受けられない海外の作品ならではの面白い表現も注目ポイントです。

※書影は国立国会図書館サーチ「書影API」を使用しています。